

設定時間、設定場面、設定状況。体験的、実践的な避難訓練にするための改善の視点

授業中に地震が発生。校庭に避難したものの、運動場が液状化したため、通学路の安全も懸念されることから、保護者への引き渡しによる下校を行う。

【B-キ】運動場が液状化し、噴砂、地割れ、陥没等で使用できない。

【C-(6)-ウ】家庭や地域住民、関係機関等との連携を密にした避難訓練・防災訓練を実施する。

1 時間・場所等

午後1時30分、地震が発生する。校庭が液状化したため、引き渡し訓練を行う設定(計45分間)

2 避難訓練の時系列及び児童・生徒及び教職員の動き

時間等	設定状況等	児童・生徒の動き等	教職員の動き
前日	●事前学習。明日、避難訓練と引き渡し訓練があることを児童・生徒に予告する。	●明日の避難訓練は、 ①下校時刻に地震が発生し、校庭等が液状化すること。 ②その後、保護者とともに下校する引き渡し訓練を行うこと。 という想定で実施することを理解する。	●学校便り等に、引き渡し避難訓練を実施することを掲載する等、保護者・地域住民等に本訓練の周知と協力を依頼する。 ●保護者に対して、事前に「液状化を想定した引き渡し訓練の開催」について通知し、訓練参加の有無について確認しておく。
1時30分	●震度5強の地震が発生	●直下地震が発生したことを想定し、教室で安全行動をとる。	●校内放送で「訓練。今、大きな地震がありました。下校を中止し、教室で待機する。」と周知する。
1時35分	●液状化により、保護者への引き渡しによる下校訓練を行う。	●地震により、校庭が液状化したため、保護者と下校することを知り、準備をする。	●校内放送「訓練。校庭が液状化したため、下校途中の道路の状況が心配であり、保護者とともに帰宅する訓練を行う。」ことを周知する。 ●担任は、引き渡しカード等や名簿を準備し、引き渡しに備える。
1時45分	●引き渡しによる下校訓練の開始	●保護者が迎えにきた児童・生徒から下校を行う。下校途中に余震が発生する可能性があることを想定して下校するようにする。 ●保護者が来校できないことが事前に分かっている児童・生徒は、教員の引率の下、集団下校等、友達と一緒に帰宅する。	●確実な引き渡しを行うよう、確認を十分に行う。 ●担任が不在の学級を取って設定し、担任業務を代行する別の教員を用意しておく。 ●保護者が来校できない児童・生徒については別室を用意し、担当の教員が対応する。
2時15分	●訓練終了		●校内に残っている児童・生徒の有無の確認
翌日	●事後学習 【学級指導】	●防災教育副読本「地震と安全」や防災教育補助教材「3.11を忘れない」等を活用し、地震後、地域によっては、液状化による地割れや噴砂、陥没等が発生し、道路や建物が危険な状況になることを確認する。	●担任等による事後指導を行う。その際、「地震と安全」の挿絵等を活用し、登校中の地震発生の際に必要な防災知識及び防災行動について確認する。 ●液状化の事例については、「東京都及び区市町村教育委員会指導主事等による東日本大震災被災地報告書」及び同DVD(全公立学校に配布済み)を参考にできる。

※ 本実施計画例は、小・中学校を想定して設定した。幼稚園、高等学校、特別支援学校の校種に応じて、液状化を想定した訓練や保護者への引き渡し訓練を設定する。

※ 校舎の耐震化が進んでいるが、液状化により二次避難する避難訓練についても設定できる。